

A piece of GOLD

THE 1ST EXHIBITION AT WACOAL STUDYHALL KYOTO

Antique Jewellery Collection - アンティークジュエリー解説

a. Stuart Crystal Ring Georgian (1760-70) High Carat Gold

目を惹く、繊細な金線の細工。その歪さから、これは手作業によって作られたものであることがわかります。当時はまだ西洋医学の発達も薬も無かった時代。病で愛する人を亡くすことは珍しいことではありませんでした。俗称、スチュアートクリスタルリングと呼ばれるこの指輪は、ジョージアン期である17世紀初頭から19世紀終わりにかけてイギリスで流行した、愛する人の死を悼むためのモーニング（Mourning=死を悼む）ジュエリーです。金線による装飾は、この指輪を含め故人のイニシャルであることが多いですが、記号的な装飾である場合もあります。身内の者にしかわからないものであったため、この金細工はサイファー（Cypher=暗号）と呼ばれています。おそらくこの故人は、W・WかM・Mがイニシャルであったことがわかります。

イニシャルの背面にあるのは布のように見えますが、これは緻密に編まれた故人の毛髪です。今の時代では考えられませんが、このように故人の毛髪をジュエリーに仕立てるのは、当時この世を去った故人を想いつづけるための大切な手段として受け入れられていました。毛髪の上に置かれたイニシャルは、カットが施されたクリスタルによって蓋をするように閉じ込められています。

また、石座の背面部と指輪のショルダーの一部にしか残っていませんが、元々は黒いエナメルが施されていたことがわかります。その当時から、黒は死を象徴する色であったのでしょう。栗原さんが20年前に購入したときにはすでに非常に稀少な存在となっていたスチュアートクリスタルリング。文化的にも歴史的にも重要な価値のあるジュエリーです。

[Haruko Kurihara - Private collection]

b. Horn Cameo Ring Georgian 14k Gold, Animal's Horn

人物の顔が彫られたカメオの指輪。少しくリームがかったこの材質は、動物の角であることはわかっていますが、何の動物のものであるかまでは不明です。注目したいのは、この華奢なつくりです。心もとないほど細い丸線と、最低限のボリュームのベゼル（Bezel=石をセットする土台。石座ともいう）は、当時の金の価値が貴重であったことをよく表しています。

[Haruko Kurihara - Private collection]

c. Chained Necklace
Georgian (1820-1830)
Pinchbeck
—
Bangle
Early Victorian (1837-1840)
Pinchbeck

ピンチベック (Pinchbeck) とは、ジョージアン期初頭のイギリスで、時計職人であったクリストファー・ピンチベック (1670-1732) によって発明された合金です。この合金は、その艶や色合い、手入れのしやすさに至るまで、本物のゴールドと見分けがつかないほどにそっくりであったことから当時人気を博しました。

合金の比率は、銅 89% (または 93%)、亜鉛 11% (または 7%) と言われていますが、製法については完全に企業秘密。息子のエドワードが没すると誰も知る者は居なくなり、現在では幻の合金とされています。

当時とても高価だった金に代わる代替品として開発されたピンチベックは、「本物じゃなくてもいいから金のジュエリーを装っているように見せたい」という人々の見栄を埋めてくれるものでした。

特に、当時のイギリスでは“本物の金のジュエリー”と“盗まれても泣き寝入りしない質のジュエリー”を使い分けることが一般的だったため、ピンチベック製のジュエリーは主にトラベルジュエリーとして愛用されていきます。旅行先で「金に似たこんなに優れた金属があるよ」と人々に伝播されると、さらにピンチベックは人気を博し、ピンチベックのまがい品まで作られるほどにまでなりました。1848年に起こったゴールドラッシュで金の価格が低下するまで続いた、ピンチベックの流行。宝飾史の中でも唯一無二な存在感を放つ金属と言えるでしょう。

[Haruko Kurihara - Private collection]

d. Chained Necklace
Victorian (1882)
9K Gold

このネックレスは見た目以上に軽量に作られています。軽さを実現しているのは、紙のように薄い厚みと幅の小さなゴールドの板でつくられたひとつひとつの輪です。光を柔らかく反射させるために若干の膨らみを持たせた輪は、すべて手作業で繋ぎ合わされています。たかがチェーンですがされどチェーン。長くアンティークジュエリーを買付けしてきた中でもあまり見たことがないほどに軽やかなつくりをしていると栗原さんは語ります。厚みや幅、輪の形状や長さによって、造形としての全体の印象は微細にも大きくも変わります。チェーンジュエリーの奥深さを感じられるネックレスです。

[Haruko Kurihara - Private collection]

e. Ring with Gemstones
Georgian
15K Gold, Garnet, Turquoise, Seed Pearl

この時代に生み出された金のジュエリーの大半は 15ct だったそうです。この指輪はまさに 15ct の金でつくられた、当時数多くつくられた様式のジュエリーです。

ガーネットとターコイズ、シードパールと呼ばれる非常に小さな真珠がセッティングされていますが、石がセットされる石座の部分もそれ以外の部分も、全体的にゴールドの厚みがぺらぺらなほどに薄いのです。頼りない見た目ではありますが、薄いからこそ指にはめた時の心地よいフィット感があり、問題なく着用できるように精密に仕立てられていることを実感します。

限られた質量で豪華なジュエリーを作るという、当時の金細工師の工夫や苦勞がありありと伺える 1 点です。

[Ami Masamitsu - Private collection]

A piece of GOLD

THE 1ST EXHIBITION AT WACOAL STUDYHALL KYOTO

Product Description - 作品展示・解説

※イヤリングの重量は片耳のもの

01

Title : SUN
Designer : Marc Monzo
Material : 18k Gold | 2.7g

このペンダントは、0.08mm という薄さでありながら、実用性とジュエリーとしての美しさがデザインによって両立されています。波のような曲線に折り曲げられた構造が、薄く柔らかいゴールドに剛性を持たせるとともに、光を繊細に反射し、ジュエリーとしての美しさをより深く引き出しています。ゴールドの特性を、デザインによって強さと美しさに転換した、作者の思慮深さが感じられる表現です。

03

Title : Fishbone
Designer : Lucie Gledhill
Material :
High Ring | 18k Gold | 10.7g
Middle Ring | 18k Gold | 6.1g
Low Ring | 18k Gold | 2.1g
Triangle Earrings | 18k Gold | 5.1g

チェーンメイキングは作者である Lucie Gledhill の作品のシグニチャーと言えます。'Fishbone' は、ひとつひとつのチェーンを手作業で作り、その手作業の痕跡=ハンマーで叩いた痕や地金同士をくっつけるための口ウ付の痕を敢えてそのまま剥き出しに見せることで、作者の素材との対話をありのままデザインに生かしたジュエリーです。工業的な緻密さや正確さとは対極にあるこのジュエリーから、作者の手の動きすらそこに見えてきそうです。

02

Title : EQU
Designer : Dan Tomimatsu
Material : 18k Gold | 2.7g

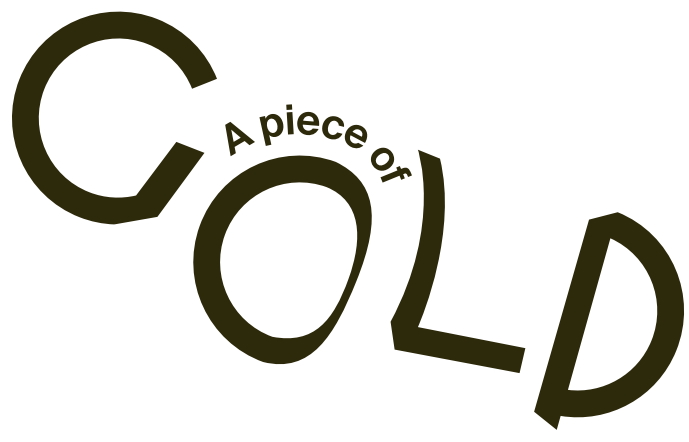
ふたつのリングが価値を同じく分け合うことを、ゴールドの質量と造形でデザインした作品です。このリングは、すべてのサイズが一律の長さの薄い板状のゴールドからつくられます。5号の小さなリングも、24号の大きなリングも、すべて同じ量、重さ、長さの地金を必要とし、価格も同じです。同じ価値を共有するというコンセプトをシンプルにゴールドの物質に置き換えた、優れたデザインです。(端が留められていないものは製作過程のサンプルです。)

Title : Absence
Designer : Scarlett Zhang
Material :

04

Rectangle Earrings | 18k Gold | 5g
Chanderrier Earrings | 18k Gold | 2.5g
Pace Two Earrings | 18k Gold | 1.05g

「不在 (absence)」と名付けられたこの作品には、強い輝きやそのクラシカルなシルエットから、私たちが当然そこにあるものだと思うものはありません。この作品には、宝石が使われていないのです。しかしこのジュエリーの内部では、存在しないはずの宝石が光を受けてきらきらと反射し、存在しているかのように見えるのです。「メタルストーン」と名付けられた、宝石の「不在」によってつくられる美しさは、手作業で小さく折り畳んだゴールドを繋ぎ合わせて生まれています。不在を強く思うことが、その存在をさらに際立てる。人間の感情の不条理さを突く作品です。



06

Title : Guldgubber
Designer : Kim Buck
Material :
 24k Gold, Silk cord | 1.8g

私的なインスピレーションを、シンプルな美しさに変換することは、優れたジュエリー作家が共通して持っている性質かもしれません。「グルドグッベ」とは「金の小さな老人」という意味で、スカンジナビアの鉄器時代につくられた美術品、お守り、お供え物を指します。グルドグッベは1-2cmほどの大きさで、人物や動物などのモチーフが刻印されていることが多く、北欧で最も古い金属工芸品とされています。この作品を創作したKimは、純金である999ゴールドにクラシックなジュエリーの原形＝ハートのネックレスを刻印し、グルドグッベを現代のデザインで再解釈しています。

Title : Self-Portrait
Designer : Scarlett Zhang
Material :
 Cameo Ring | 18k Gold | 1.5g
 Round Ring | 18k Gold | 0.7g
 Spiky Ring | 18k Gold | 1.2g

08

Scarlett Zhang が出展するもう一つの作品、'Absence' の前身となった作品。印象派の芸術的アプローチにインスパイアされたこの3つの作品は、作者自身が大切にしていた数点のジュエリーが持つ最も重要な「印象」を反映させて制作されたものです。この作品で彼女は、金を0.08mmの薄さに圧延し、ハサミで切り抜いて折り畳み、出来上がったパーツをレーザー溶接機で接合して1グラム前後のジュエリーを完成させています。遊び心あふれた金の扱い方は、金に対する一般的な評価や価値の恣意性に対する問いを投げかけています。

05

Title : star
Designer : Sayumi Yokouchi
Material :
 24k Gold, Nylon cord | 6.6g
 18k Gold, 10k Gold (chain) | 2g

ゴールドはとてもやわらかい金属です。そのため純度の高いものほど、ジュエリーとしての実用性から遠ざかるという性質を持っています。しかしこのネックピースは、純金が持つ柔らかさやそれゆえに予想される変形を、楽しむためにデザインされた作品です。身につける人の時の経過を、形に表してくれるジュエリーと言えるかもしれません。(コードが通されていないものは作者が普段身につけているサンプルです。)

Title : FIRE
Designer : Marc Monzo
Material :
 Earrings | 18k Gold | 0.75g
 Brooch | 18k Gold | 5.8g

07

SUN (01) 同様とても薄いゴールドを扱いながら全く異なる表情がデザインされているのが、'FIRE' と名付けられた作品です。紙をくしゃっと丸めたような、やわらかさと繊細さを併せ持つフォルムに反し、炎のような鮮やかで力強い煌めきを湛えています。デザインによってゴールドの素材としての価値を新たに発見させてくれるとともに、その表現力の豊かさをありありと感じさせる作品です。

Title : Fact
Designer : Marta Boan
Material : 18k Gold | 0.5g

09

この作品には、それが金属であることを忘れてしまうような細部の繊細さと、全体のフォルムを見たときにはっと驚かされる大胆さが同居しています。日常に潜む些細な気づきをインスピレーションに、作者独自のデザインルールで生み出されたピアスたちは、身につけてみるまでどんな形をしているか分からないという魅力があります。1gの金をできるだけシンプルな処理で変換することによって生み出されているというのも、造化の妙を感じさせます。

10

Title : Coil
Designer : Sayumi Yokouchi
Material :
 Oval | 18k Gold | 4.0g
 Square | 18k Gold | 4.35g

この作品は、1本のワイヤーをコイル状にしていくというシンプルな技法のみでつくられていながら、まるでお菓子のよう、柔らかく愛らしいフォルムをしています。折り重ねられたコイルは何層にも重ねられることによって、また所々口ウ付けされることによって強度を携え、製品としての耐久性が軽やかに設計されていることに肩の力が抜けたデザイン性を感じます。金属の硬さと柔らかさを巧みにデザインに採り入れた作品です。

12

Title : LITTLES
Designer : Ami Masamitsu
Material : 18k Gold | 1.9g

見る角度によってさまざまな表情を魅せてくれるこのエアリーな構造のピアスは、注意深く観察すると1mmのダイヤモンドを携えた小さなエンゲージメントリングの交差によって構成されているものだと気づきます。そして気づいた瞬間から、このデザイン表現に愛着が湧くのです。宝石がセットされるためにデザインされた石座という機能のうつくしさを、控えめだけれど全面的に讃えている作品です。

Title : Fix and Wear
Designer : Kim Buck
Material :
 Earrings | 18k Gold, Diamond | 0.8g
 Ring | 18k Gold, Diamond | 0.8g

14

このリングとピアスは、最もミニマルな手法のセッティング方法でダイヤモンドが留められているジュエリーと言えるかもしれません。1本のゴールドのワイヤーでダイヤモンドを挟み、捻って留めるというアイデアは、非常に理にかなったシンプルなアイデアですが、高い技術力無しには成立できないデザインです。一切無駄な要素の無いタイムレスな造形は、美しさの普遍性を感じさせ、90年代につくられたジュエリーであるということを忘れさせてくれます。

11

Title : Sheet
Designer : ATAKA
Material :
 1 circle | 18k Gold | 0.25g
 5 circle | 18k Gold | 0.85g

「ピアスを留める」という機能の再構築を試みた作品。従来の制約に縛られず、ピアスのポストとキャッチをシンプルな手法により一体化させることによって、機能にミニマルな美しさを与えることに成功しています。機能を純粹に探求し、まだ見ぬかたちが生みだされる美しさを、わたしたちは機能美と呼ぶのでしょうか。

Title : EMBROIDERY
Designer : Ami Masamitsu
Material :

A Piece of Gold Ring | 18k Gold | 3.6g
 Forget Me Not Ring | 18k Gold | 2.1g
 m Ring | 18k Gold | 2.1g
 Necklace | 18k Gold | 3.4g

0.3mm厚の薄いゴールドの板で作られた、フラットで普遍的なリング。その表面に立ち上がった文字や図柄は、作者の手によって緻密にねじられ、厚延された細いワイヤーを用いて即興的に作り出され、レーザー溶接によってひとつひとつ接着されています。ネックレスは、リングのデザインの前身となったもの。シンプルな材料とシンプルな手作業でも、その表現方法によって豊かな表情を惹き出すことができる。創意工夫によってジュエリーを充実させることを追求した作品です。

13

A piece of
GOLD

15

Title : Ennui
Designer : Hongxia Wang
Material :
 Ring | 18k Gold | 3.3g
 Earrings | 18k Gold | 2.5g

この作品には、雷に打たれたようなインスピレーションも、壮大なコンセプトも存在しないと作者である Hongxia は語ります。ただ退屈な時間と向き合い、白紙のスケッチブックに気の向くままにドローイングをするように、この有機的なフォルムは生み出されます。必要な道具はワックスとバーナー、そして細かい針。その時々作者の感性そのものが生々しく写し取られた、絵画的な作品と言えるでしょう。

17

Title : Stamp Ring
Designer : Marta Boan
Material : 18k Gold | 3.0g

このリングは、カットアウトしたゴールドの板に2本のカットを入れて折り曲げるだけという、最低限のアクションをデザインの核とした非常にエフォートレスな作品です。シンプルな形ではあるけど造形力が感じられるというのは、'Fact' 同様 Marta Boan が作り出すジュエリーに共通する魅力と言えるでしょう。

19

Title : Solder Seam Stud
Designer : Lucie Gledhill
Material : 18k Gold | 0.8g

金属を接着する技法である「ロウ付け」は、ジュエリーを完成させるための手段であり通常着目されるものようなものではありません。作者は、この「ロウ付け」の際に用いる、「ロウ」そのものに美しさを見出し、唯一無二のジュエリーを仕立てています。彼女はまず、シルバーでリングを制作し、敢えてシルバーよりも融点の高い金のロウで断面同士を接着し、その後シルバーのリング部分を全て溶かしてしまいます。手元に残った18金のロウは、溶けた瞬間の形や状況をそのままに写し取った、いわばロウの化石です。ロウそのものをピアスにしてしまうという発想は、ロウ付けに魅了された Lucie Gledhill ならではのユニークな作品と言えるでしょう。

Title : The Naked Collection
Designer : Hongxia Wang
Material :
 18k Gold, 0.65ct Untreated
 Madagascar Sapphire | 2.5g

16

このリングはまさに金属の裸の表情を切り取った作品です。有機的なフォルムはワックスを溶かしながら造形され、ロストワックス法によってゴールドに置き換えられています。鑄造によって自然に作り出される金属のマットな表情は、艶やかな宝石との心地よいコントラストを生み出しています。

Title : small oval link CHAIN
Designer : Sayumi Yokouchi
Material : 18k Gold | 5.4g

18

'Coil' 同様、端正に作られているけれど、輪の大きさの微妙な差異や微細にちがう表情が、作品に心地よい揺らぎや温かさを与えています。変わらない繰り返しの作業に安堵すら感じると作者である Sayumi は語ります。金属との密な対話と、それぞれの反応が微細に写し出されている作品です。

A piece of
GOLD